

有害プランクトン情報

(令和元年度 - No. 8)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- 調査日 沖合 11月 第1回 内湾 (8地点) 11/5,6 内房 (7地点) 11/6
- 臨時 市川沖 11/7,11 新富津沖 11/8,11 船橋沖・木更津沖・中里沖・下洲沖・大佐和沖 11/11 勝山魚類養殖場 11/11
- 貝類漁場内 九十九里 11/11,20

【有害プランクトンの出現状況】

- ヘテロシグマ属の細胞密度は11/7に市川沖で868,000細胞/mLとなり、警戒基準密度(10,000細胞/mL)を超えたため、11/8に警報を発出しました。11/11に市川沖から大佐和沖にかけて広域的に調査したところ、最高細胞密度は35細胞/mLで、注意基準密度(1,000細胞/mL)を下回ったため、警報を解除しました。漁業被害はありませんでした。
- シャットネラ属の最高細胞密度は11/6に勝山沖及び岩井で0.05細胞/mLでした。カレニア属、シュードシャットネラ属は確認されませんでした。
- 赤潮(透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上)は確認されませんでした。
※ シャットネラ属は1細胞/mL, ヘテロシグマ属は1000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mLを超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、ディノフィシス アキュミナータが11/5に船橋で0.90細胞/mLでした。なお同種は10/2に千葉灯標で20.55細胞/mLまで増加しましたが、被害情報はありませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが11/6に盤洲南で0.15細胞/mL, ディノフィシス カウダータが11/5にアクア北で0.05細胞/mLでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

- 11/5,6 内湾 珪藻 スケルトネマ属 (図1)
- 11/6 内房 珪藻 スケルトネマ属, キートセロス属 (図2)



図1 スケルトネマ属
(11/5 羽田沖)

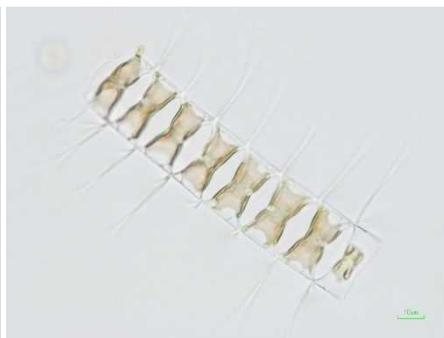
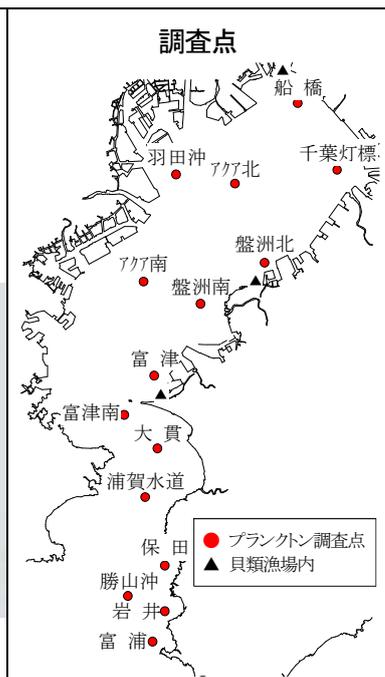


図2 キートセロス属
(11/6 岩井)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp